

2011年2月24日

2011年度笹川記念保健協力財団

研 究 報 告 書

研 究 課 題

_____ 終末期がん患者を支える口腔ケアの確立 _____

_____ 口腔乾燥の客観的評価およびその対応策の確立 _____

所属機関・職 横浜市立みなと赤十字病院歯科口腔外科・部長

研究代表者氏名

向山 仁



I 研究の目的・方法

終末期がん患者において、ターミナル中期以降に口腔内トラブルとして、口腔乾燥、口腔の痛み、口内炎、口臭、舌苔など多くの口腔の諸問題が生じる。症状が進行している例も多く、限られた人生を考慮すると、このようなトラブルに対して、患者の QOL を維持するために、患者本人や家族の精神的ケアを得るため、どのように、どこまでの、口腔ケアを行うべきか不明であり、これを明らかにするために本研究を行う。

口腔ケアとは、「口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションにより QOL の向上を目指した科学であり、技術である。」と 8020 財団は提言している。また、ヴァージニア・ヘンダーソンは、「患者の口腔内の状態は看護の質を最も表すもののひとつである。」と述べていることから、患者の日常生活を支え、さらに生きることを支えるための重要なケアと言える。そのため、緩和ケアに口腔ケアを有効に取り入れることは患者の QOL 向上につながると考えられる。われわれは 2010 年度のホスピス緩和ケアにおける QOL の向上に関する研究助成のなかで終末期において、口腔乾燥は予後が短いほど強くなっており、口腔乾燥対策としての口腔ケアは重要と考えられる背景がある。

II 研究の内容・実施経過

口腔のケアは患者の自立度が高いときは、自身でケアが可能として、ほとんど、医師、看護師の目に触れることは少ない。一方でターミナルステージが進行して、自立度が低くなると、口腔内の問題に医療者側が五感で感じるようになってくる。しかし、この口腔内の症状が悪化した段階では、QOL 維持のためにどこまでの、口腔内の処置が必要か、緩和ケア医のみならず、口腔を専門とする歯科医でも不明である。そこで、ステージごとの患者家族の QOL に即した緩和ケアにおける口腔ケアのあり方を検討する必要がある。今までの研究では、患者本人、患者家族の口腔ケアに対する意識、また、入院時の口腔内状況が不明であるために、医療者側が口腔ケアをどの程度行うべきか、どの程度行うことが QOL に即したか不明である。

従来の研究では、入院時の口腔内状況が不明であるために、医療者側が口腔ケアをどの程度行うことが QOL に即したか不明であった。われわれは 2010 年度のホスピス緩和ケアにおける QOL の向上に関する研究助成のなかで終末期において、口腔乾燥は予後が短いほど強くなっており、口腔乾燥対策としての口腔ケアの重要性を明らかにしている。しかしながら口腔内の乾燥について、客観的評価はできていない。そこで、緩和ケア病棟入院時から経時的に、口腔内状況の診察、質問表による口腔 QOL の評価 (GOHAI)、PPI 評価に加えて口腔乾燥度測定 (ムカスを用いた電気抵抗法) 実施した。

これらの解析を行うことにより、ステージ別の口腔乾燥を客観的主観的に評価が可能になる。評価に基づいた適切な対応によりターミナルステージに即した口腔ケアにつながる。それにより患者、家族にとって満足度の高い、すなわち、QOL の維持につながる口腔ケア方法を見つけることができると考えられる。

患者本人や家族の QOL、精神的ケアに即した口腔ケア確立のためには予後が限られた緩和ケアにおいては全身症状、口腔症状、QOL の予後別評価が必要である。そこで、1) palliative performance index (PPI) (palliative performance scale、経口摂取、浮腫、安静時の呼吸困難、せん妄の各項目評価から算出)、2) 口腔アセスメント(口蓋咽頭部の汚れ、乾燥、口臭、舌の汚れ、歯の汚れの視診触診による評価)、3) GOHAI(口腔関連の包括的な健康関連 QOL の尺度)により患者口腔状態の QOL を評価した。4) 口腔乾燥の実測(口腔乾燥測定器ムーカスによる口腔乾燥測定)

具体的には、緩和ケア病棟入院時に、口腔の経時的評価を希望する患者に対しては歯科医が口腔内の診察を行い、さらに、週に 1 回に患者の口腔内のトラブルや口腔汚染状況を評価する。入院時の口腔内の調査項目としては残存歯数、口腔内の歯牙の状態(う蝕、歯周ポケット、残存歯の支持様式)、を調査した。口腔内のトラブルとして①粘膜の糜爛・潰瘍、②口腔内からの著明な出血、③歯の著明な動揺、④自発痛、口腔内の汚染状況として、①口蓋咽頭部の汚れ、②口腔の乾燥状態、③口臭、④舌の汚れ、舌苔、⑤歯牙の汚染状態について目視で調べた。また、口腔水分計ムーカスにより舌および頬粘膜について、口腔乾燥を測定した。

さらに緩和ケア医が PPI を週に一度評価し、看護師が GOHAI を週に一度患者に聞くことで口腔 QOL を評価した。

これらの結果を死亡時を予後 0 として、後ろ向きに評価しなおすことで、予後とこれらの因子の関係を検討した。

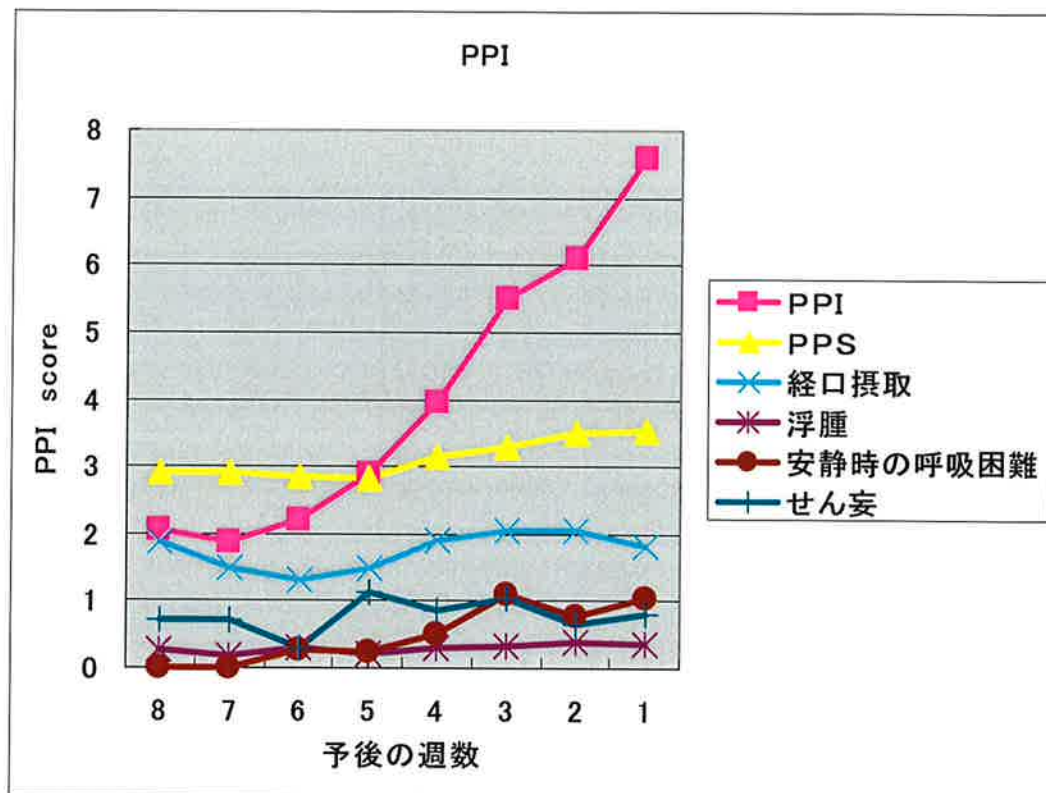
研究は倫理的配慮に基づき、立案計画し、研究に先立って、みなと赤十字病院倫理委員会の許可を得て実施した。

PPI、GOHAI、口腔アセスメントについては報告書最後に内容を添付した。

Ⅲ 研究の成果

男 27 名女 17 名、計 44 名の患者が参加した。研究参加時の平均年齢 74.55 ± 11.77 歳、平均在院日数は 44.58 日であった。

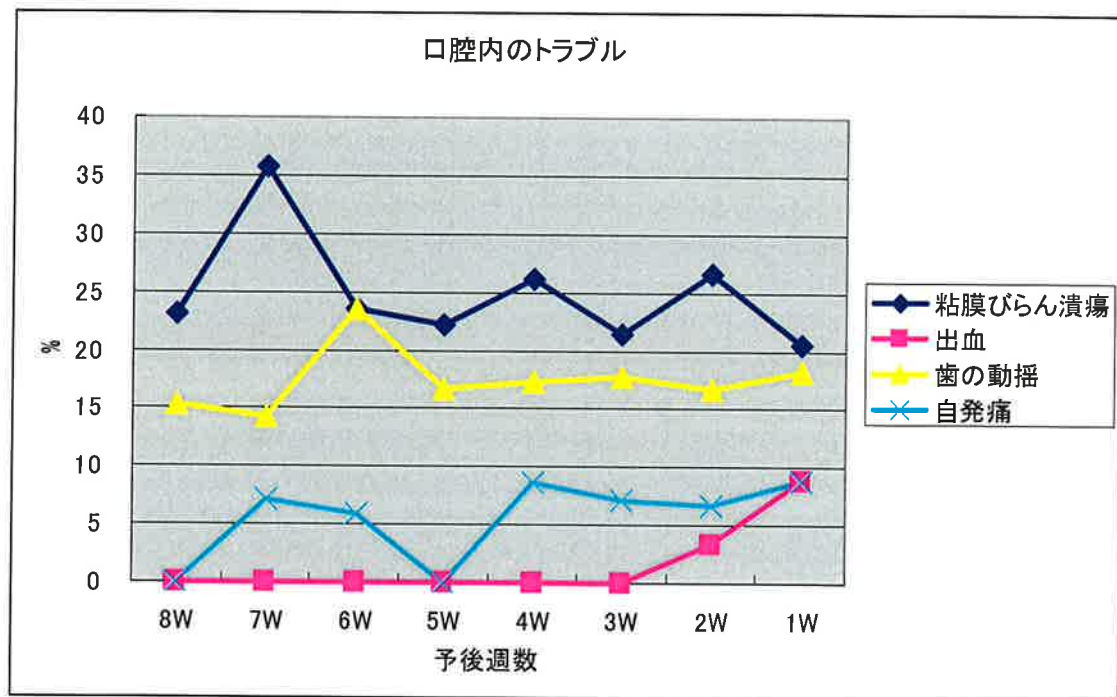
i)PPI の評価結果について



本研究で対象としている患者さんはP P Iスコアの上昇に示されるように全身状態が不良となっているガン終末期患者さんであることが示された。

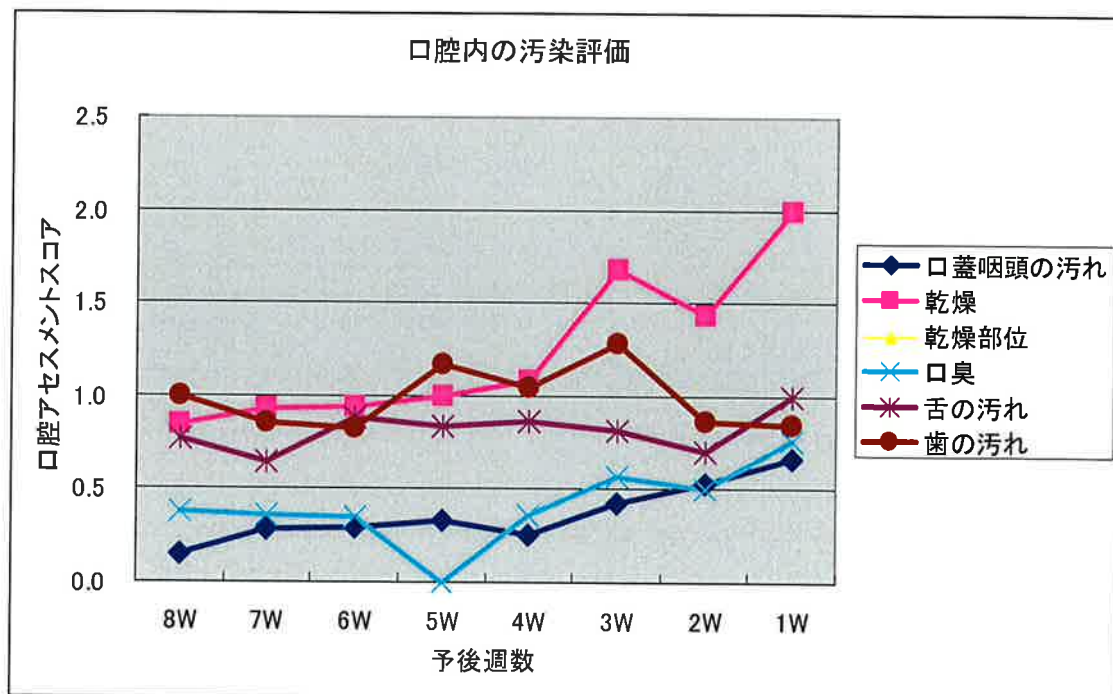
iii)口腔トラブルおよび口腔アセスメント評価（口腔内の汚染評価）について

①口腔トラブル



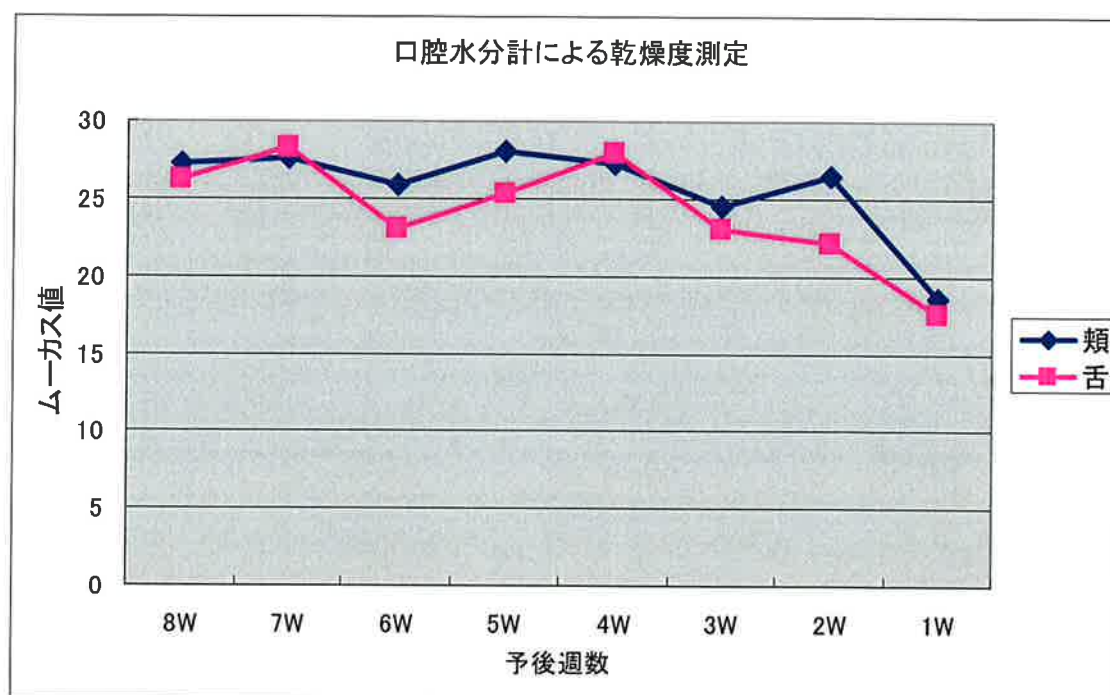
粘膜びらん潰瘍形成、歯の動揺はある程度の頻度で継続していた。口腔内の出血、自発痛は増加傾向であった。

②口腔アセスメント評価（口腔内の汚染評価）



口腔内汚染評価では口蓋咽頭部の汚れ、乾燥、口臭、舌の汚れ、歯の汚れに関する各スコアのなかで口腔乾燥が予後 1 週で有意に上昇した。また、口蓋咽頭部の汚れ、口臭も増加傾向にあった。

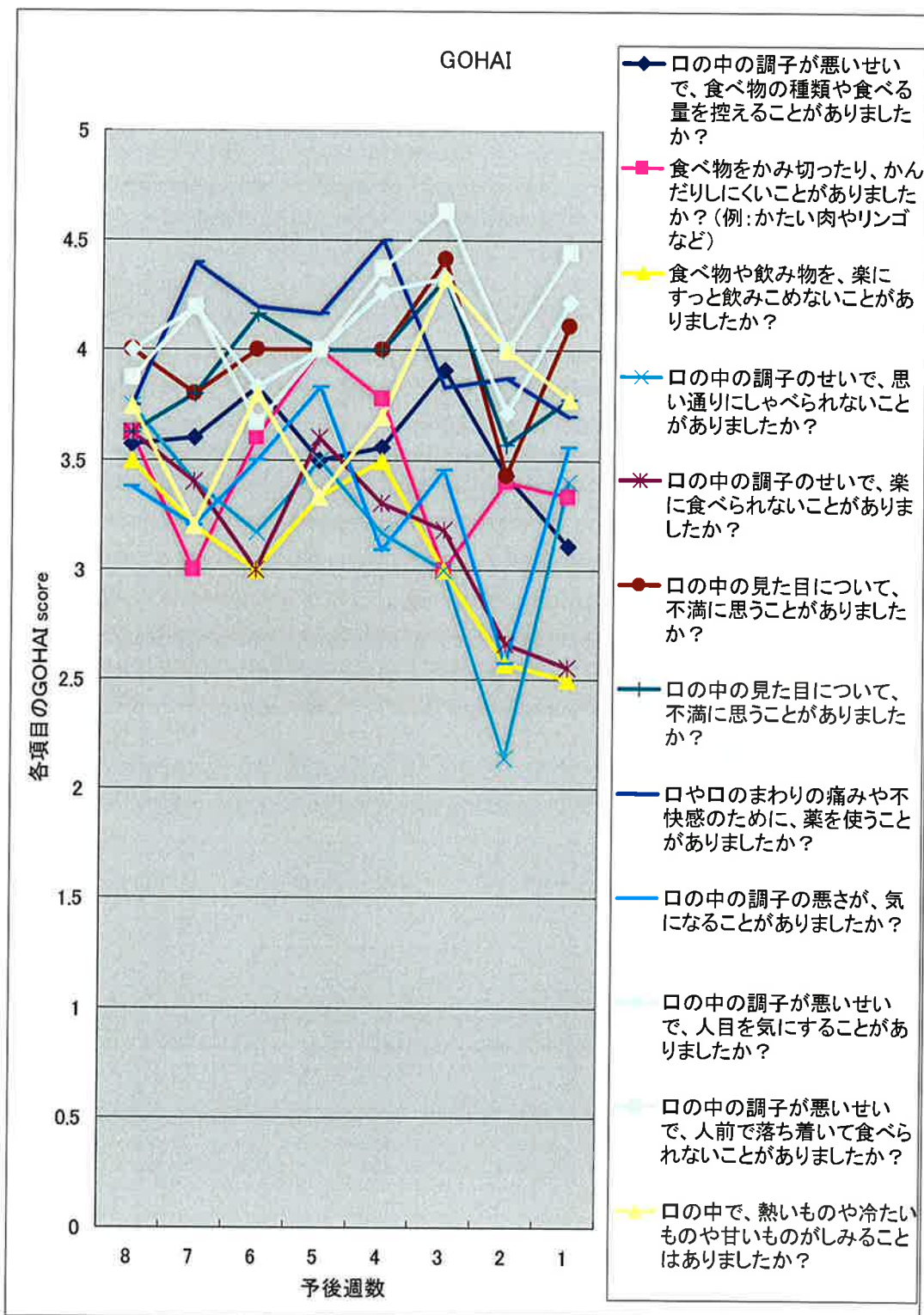
③ムーカス測定



口腔水分計ムーカスを使用した場合、27-31を境界域として、27未満の場合は口腔内が乾燥状態であることが疑われますが、本研究で示されるようにムーカス値は予後 8 週から 27 程度あり、予後が短くなるに連れて、さらに下がっていくことがわかった。

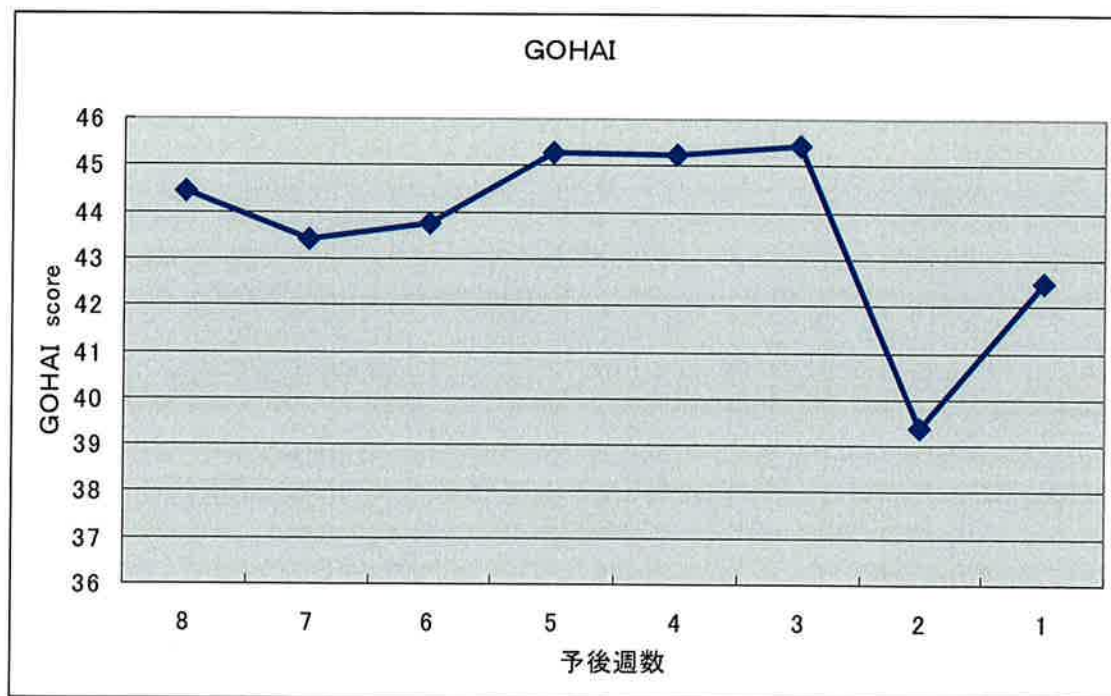
iv) GOHAI について

① GOHAI の各項目について



GOHAI では、食べれない、飲み込みない等の機能面の尺度を示す項目において予後が短くなるにつれて下がっていた。

②GOHAI の各項目の総和について



GOHAI score は予後2Wで下がっていた。

【考察】以上の結果より、当院緩和ケア病棟患者は PPI から示されるように予後が短くなるにつれて、種々の全身症状に悩まされていることが示されている。一方で口腔アセスメントでは口腔乾燥は予後が短いほど強くなっており、口腔乾燥対策は予後短くなってきている症例について対応していくことは重要と考えられた。口腔乾燥は触診による方法とムーカスによる方法が関連しており、予後が短くなるにつれて、口腔乾燥が進行していることがわかった。GOHAI スコア予後が短くなるにつれてさがっており、かつ GOHAI の下位尺度の各項目のスコアについては予後が短くなるにつれて、咀嚼、嚥下機能の低下を訴えていた。これらを総合すると口腔内の乾燥に対しては垂れ込みの少ない保湿剤使用するあるいは流れがよい保湿剤の場合は少量で頻回に保湿剤を使用するなどの対応が必要であると考えられた。

IV 今後の課題

終末期の患者さんには意識レベルの低下がおこっており、GOHAI に適切に答えられない、あるいは乾燥対策として保湿剤を使用してもその効果を適切に評価しにくい状態にある。今後のさらに簡便かつ有効な評価方法を使用して各種口腔乾燥の評価法を使用してもっともよい口腔乾燥への対策方法を見つける必要があると考えられた。

V 研究の成果等の公表予定（学会、雑誌等）

1) 第9回日本口腔ケア学会総会・学術大会

会 期 2012年6月16日（土）《総会・学術大会》 17日（日）《学術大会》にて発表予定

2) Special care in Dentistry に投稿予定

VI 添付資料

PPI、口腔ケアアセスメント、GOHAI について

PPI

PPS	10～20	4
	30～50	2.5
	≥60	0
経口摂取*	著明に減少(数口以下)	2.5
	中程度減少(減少しているが数口よりは多い)	1
	正常	0
浮腫	あり	1
	なし	0
安静時の呼吸困難	あり	3.5
	なし	0
せん妄	あり	4
	あり**	0
PPI=PPS+経口摂取+浮腫+安静時の呼吸困難+せん妄		

Palliative Performance Scale

起居		活動と症状	ADL	経口摂取	意識レベル		
100	100%起居している	正常の活動・仕事が可能 症状なし	自立	正常	清明		
90							
80		何らかの症状はあるが 正常の活動が可能					
70	ほとんど起居している	明らかな症状があり 通常の仕事や業務が困難	ときに介助	正常 もしくは 減少	清明 もしくは 混乱		
60		明らかな症状があり 趣味や家事を行うことが困難					
50	ほとんど座位もしくは臥床	著明な症状があり どんな仕事もすることが困難	しばしば介助				
40	ほとんど臥床	著明な症状があり 殆どの行動が制限される	ほとんど介助	数口以下 マウスケアのみ	清明 もしくは 傾眠±混乱		
30	常に臥床		全介助				
20		著明な症状があり いかなる活動も行うことができ					
10							

用紙 I

★口腔ケアアセスメント票 (病棟用)

No.	枚目
記入開始年	平成 年
担当看護師	

かな	ID番号	
患者氏名	生年月日 性別	明治・大正・昭和・平成 年 月 日生まれ 男 ・ 女

1. 確認をお願いします。数字またはアルファベットをご記入ください。

評価回数			1	2	3	4	5	6	7	8
評価日			/	/	/	/	/	/	/	/
評価項目	上顎	1: なし ・ 2: あり								
入れ歯	下顎	1: なし ・ 2: あり								
ケア使用物品	A: 歯ブラシ B: 歯間ブラシ C: ICUブラシ D: スポンジブラシ E: ガーゼ									
ケア使用剤	F: イソジンガーグル G: アズノール含漱液 H: 潤潤ジェル I: アズノール軟膏									

2. ①～⑤がひとつでも「1」に該当した場合、歯科口腔外科に受診依頼してください。

①粘膜のびらん・潰瘍	1: あり 2: なし								
②著明な出血	1: あり 2: なし								
③歯の動揺	1: あり 2: なし								
④自発痛	1: あり 2: なし								
⑤入れ歯の適合 (装着者のみ)	1: 悪い 2: よい								
合計点 (①～⑤)									
※①～⑤がひとつでも「1」に該当した場合、 主治医から歯科口腔外科への受診依頼		未・済	未・済	未・済	未・済	未・済	未・済	未・済	未・済

3. ⑥～⑩の合計点が5点以上だった場合、歯科口腔外科に回診依頼してください。

⑥喀痰	※点数は、 下記の評価表を参照							
⑦口腔乾燥								
⑧口臭								
⑨舌苔								
⑩歯垢・歯石								
合計点 (⑥～⑩)								
※⑥～⑩の合計が5点以上の場合は、裏面の回診依頼表へ								
記入者サイン								

《評価表》

点数 観察項目	0点	1点	2点	3点
⑥喀痰	ない	液状・粘性の喀痰付着	一部分に付着し、容易に除去できない	口腔内全体に付着
⑦口腔乾燥	口腔内が適度に湿潤	粘稠な唾液がみられ、口腔内がやや乾燥している	唾液分泌がほとんどなく、口腔内が乾燥している	過剰な乾燥がみられる
⑧口臭	なし	口腔から15cmの位置で臭いを感じる	口腔から30cmの位置で臭いを感じる	口腔から30cmの位置で顔をそむける程
⑨舌苔	なし	舌の1/2にある	舌全体にある	舌全体に横層している
⑩歯垢・歯石	なし	触るとわかる	肉眼でわかる	多量（厚い層）

口腔アセスメントに使用した、評価方法

GOHAI

過去3カ月間に、どのくらいの頻度(ひんど)で次のようなことがありましたか
それぞれの質問(1~12)について、もっとも近いと思われる番号(1~5)に
ひとつ○をつけて下さい。

	い つ も そ う だ っ た	よ く あ っ た	時 々 あ っ た	め っ た に な か っ た	ま っ た く な か っ た	解 答 で き な い
口の中の調子が悪いせいで、食べ物の種類や食べる量を控えることがありましたか？	1	2	3	4	5	6
食べ物をかみ切ったり、かんだりしにくいことがありましたか？(例:かたい肉やリンゴなど)	1	2	3	4	5	6
食べ物や飲み物を、楽にずっと飲みこめないことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子のせいで、思い通りにしゃべれないことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子のせいで、楽に食べられないことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子のせいで、人とのかかわりを控えることがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の見た目について、不満に思うことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口や口のまわりの痛みや不快感のために、薬を使うことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子の悪さが、気になることがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子が悪いせいで、人目を気にすることがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中の調子が悪いせいで、人前で落ち着いて食べられないことがありましたか？	1	2	3	4	5	6
口の中で、熱いものや冷たいものや甘いものがしみることはありましたか？	1	2	3	4	5	6